2009年度海外研修旅行の報告

林　文明・藤田英樹・鈴木泰成・木下　茂・鈴木敦己

1. は じ め に

本学では，人材育成のため毎年夏休み中に希望者を募り海外研修旅行を実施している。研修旅行先は，2000年より本学の提携校であるイタリア国立フェラーリ工業専門学校が所在するイタリアに行っており，今年で９回目の訪問である。

本稿では，2009年に行われた海外研修旅行について報告する。

2. 研 修 旅 程

海外研修旅行は，提携校であるイタリア国立フェラーリ工業専門学校での研修及びフェラーリの見学を中心とした自動車に関わる研修を主に検討し立案した。

研修旅行の日程は，2009年８月29日（土）～９月５日（土）の６泊８日に決定し，旅程を2008年11月から作成，調整してきたが，本学の要望と提携校及び旅行会社との交渉が難航し，6月下旬まで旅程がはっきりせず再三にわたって変更になった。更に研修の中心となっていたフェラーリ社の工場見学はフェラーリ社から許可されず，今回初めて実施できなかった。

このような状況の中で少しでも研修の内容を充実させようと検討し，今回初めて訪問国にドイツを入れる提案ができた。その研修内容は，表１に示すように，イタリア国立フェラーリ工業専門学校での研修をはじめとしてフェラーリ博物館，ランボルギーニ博物館，ポルシェ博物館，ベンツ博物館，ゾンダ社の見学，フェラーリ専門のカロツェリア（整備工場）及びフェラーリ社のテストコースの見学，また異国文化に関わる研修ではヴェネツィアを周る研修旅程となった。

3. 参 加 募 集

海外研修旅行の参加募集人数を40名とし，定員を確保するため，研修旅行に対する在学生の関心を引き付けるため2008年12月下旬には募集用案内ポスターを作成し，各教室及び掲示板，主要建物，受付窓口，相談窓口等を告知した。１月に入り１年実習授業担当者に説明会の案内をお願いし，1月20日に第１回研修旅行案内説明会を実施したが，まだ学生の意識が薄く参加者は０名であった。

研修旅行に対する保護者の理解を早めに得るため，3月下旬に新入生及び新２年生の保護者宛

表１　海外研修旅行実施旅程

	月　日	都市名	交通機関	時間	スケジュール	食事
①	8月29日	セントレア　発	ﾙﾌﾄﾊﾝｻﾞ	10:30	空路，中部国際空港からルフトハンザドイツ航空	
	（土）	ﾌﾗﾝｸﾌﾙﾄ　着	LH737 便	15:40	で，フランクフルトを経由し，シュツットガルドへ	昼✈
		ﾌﾗﾝｸﾌﾙﾄ　発	ﾙﾌﾄﾊﾝｻﾞ	17:20		
		ｼｭﾂｯﾄｶﾞﾙﾄﾞ　着	LH1356 便	18:00	到着後，ホテルへ	
					夕食はホテル内レストラン	夕○
					【シュツットガルド泊】	
②	8月30日	ｼｭﾂｯﾄｶﾞﾙﾄﾞ滞在	専用バス	09:00	ホテルで朝食後，ベンツ博物館見学	朝○
	（日）			12:00	市内レストランで昼食。	
					昼食後，ポルシェ博物館見学	昼○
					見学終了後，ホテルへ	
				19:00	市内レストランで夕食　【シュツットガルド泊】	夕○
③	8月31日	ｼｭﾂｯﾄｶﾞﾙﾄﾞ			ホテルで朝食後，出発まで自由研修	朝○
	（月）	ｼｭﾂｯﾄｶﾞﾙﾄﾞ　発	ﾙﾌﾄﾊﾝｻﾞ	13:55	空路，シュツットガルドからルフトハンザドイツ	
		ミラノ　着	LH3928 便	15:15	航空でミラノ（マルペンサ空港）へ	昼×
		ミラノ　発	専用バス	16:00	ミラノから専用バスでマラネロへ	
		マラネロ　着		19:30	市内レストランで夕食後，ホテルへ	夕○
					【マラネロ泊】	
④	9月1日	マラネロ　発	専用バス	08:45	ホテルで朝食後，ボロネーゼへ。	朝○
	（火）	ボロネーゼ　着		09:30	ランボルギーニ博物館見学	
		ボロネーゼ　発	専用バス	10:30	見学終了後，モデナへ	
		モデナ　着		11:00	パガーニ・ゾンダ社訪問	
				12:30	市内レストランで昼食	昼○
				13:30	フェラーリ社周辺散策	
		モデナ　発		16:00	フェラーリ個人所蔵博物館見学	
		マラネロ　着		19:00	市内レストランで夕食後，ホテルへ	夕○
					【マラネロ泊】	
⑤	9月2日	マラネロ		09:30	ホテルで朝食後，フェラーリ博物館見学	朝○
	（水）			10:30	フェラーリ（IPSIA　FERRARI）専門学校訪問	
				12:00	「ラ・デジテリア」レストランで昼食。	
				14:00	カロッチェリア訪問します。（ｻﾞﾅｰｼ，ﾄﾆｰｵｰﾄ）	昼○
		マラネロ　発	専用バス	16:00	専用バスでヴェネチアへ	
		ヴェネチア　着		19:00	ホテル到着後，ホテルで夕食　【ヴェネチア泊】	夕○
⑥	9月3日	ヴェネチア滞在		09:00	ホテルで朝食後，ボートで本島へ	朝○
	（木）				市内観光（ドゥカーレ宮殿，サンマルコ寺院，リアトル橋など）ゴンドラ遊覧	
				13:00	島内レストランで昼食	昼○
					昼食後，自由研修	
				20:00	ボートでメストレ地区へ	夕×
					到着後，ホテルへ　【ヴェネチア泊】	
⑦	9月4日	ヴェネチア		07:00	ホテルで朝食後，空港へ	朝○
	（金）	ヴェネチア　発	ﾙﾌﾄﾊﾝｻﾞ	10:35	空路，ヴェネチアからルフトハンザドイツ航空でフ	昼✈
		ﾌﾗﾝｸﾌﾙﾄ　着	LH4083 便	12:00	ランクフルトを経由し	夕✈
		ﾌﾗﾝｸﾌﾙﾄ　発	ﾙﾌﾄﾊﾝｻﾞ	14:35	帰国の途へ	
⑧	9月5日	セントレア　着	LH736 便	08:59	中部国際空港到着。	朝✈
	（土）					

に案内を郵送した。更に，入学式終了後に新入生及びその保護者に参加募集案内を行い，4月６日に第２回説明会，10日に第３回説明会を行ったが，参加者は６名に留まった。また，全学生を対象に海外研修旅行に関わる意識調査アンケートを４月10，11日のクラス別ガイダンス内に実施し，興味を示す学生の把握を行った。説明会参加者が少ないため，興味を示す学生が多いMSE科と車体整備専攻科の学生を学科単位で４月27，28日に研修旅行案内説明会を行った。

５月１日に，学園本部より豚インフルエンザ感染の恐れがあるので海外渡航は一時見合わせる

という方針が出されたので，参加募集活動を控えることとなった。６月に入り参加人数の確定をしなければならない時期に入ったので委員会を開催し，海外研修旅行をどうするかという方向性を話し合った。その結果，委員会としては，参加希望者の中には今年が参加できる最後の学生もいるので，実施できる可能性があるならば実施したいという方針となった。翌日の学長室会議において，その旨，委員長より委員会の方針を報告した。その後，再度参加募集を行うため，仮申込者及び少しでも関心のある学生を個別に回り，個別説明をして正式な申込み用紙を提出するよう案内した。その結果，最終参加者は，1年生７名，2年生１名，車体整備専攻科生３名の合計11名となった。その後，参加予定者を対象にパスポート等研修旅行に関わる具体的な内容説明会を７月７日，23日の２回行った。また，保護者にも確認して頂くため研修旅行ガイドブック（本学作成）及び最終案内を８月６日に郵送した。今年度は，昨年末からの経済不況，4月末には新型インフルエンザの発症，学生数減等いろいろなマイナス要因が多く，募集人数40名のところ，参加者11名に留まった。

4. 研修旅行風景

研修旅行１日目は，午前８時30分に中部国際空港に集合し結団式を行った後，中部国際空港からフランクフルトへ向けて午前10時30分（日本時間）に飛び立ち，約12時間の長いフライトを体験し，更にフランクフルトを経由しシュツットガルド空港に着いたのは，現地時間の午後６時00分（日本との時差は７時間）であった。その後，専用バスでシュツットガルドにある宿泊ホテルに移動し，異国ドイツで初の夕食を味わった。シュツットガルドはバーデン・ヴュルテンベルク州の州都で，ドイツで６番目くらいの大きさの州都である。ドイツでよく食卓にのぼるザワークラウトの原料であるキャベツやワインの産地で，メルセデス・ベンツ，ボッシュ，ポルシェの本社がある工業都市でもある。

２日目は，朝ホテルよりシュツットガルド市内にあり2006年５月にオープンしたメルセデス・ベンツ博物館を見学した。日本語の案内ガイドレシーバが無料で借りられた。入場するとまずエレベータで最上階までいき，らせん状に年代をおって見学できるようになっている。ベンツ最古のものから最新のものまで，乗用車，バス，Ｆ１レースカーなど約160台もの車が展示されていた。途中には，レースカーの歴史フィルムや技術開発の歴史も見ることができた。地下にいく途中には，コンセプトカーが壁に展示されていた。地下にはショップがあり土産物がたくさん売られていた。さすがにベンツ，土産物も高かった。博物館の隣には巨大なメルセデス・ベンツのディーラーがあった。メルセデス・ベンツ博物館での集合写真を写真１に示す。見学のあとは，道路をはさんだところにあるレストランで昼食をとった。このレストランは，ドイツ・ブンデスリーガ，VfBシュツットガルド（1893年創設でリーグ優勝５回の歴史あるクラブのようだが，最近は中位以下に低迷しているようだ）のクラブハウスであり，一般に開放されていて多くの市民がランチを楽しんでいた。クラブハウスはそのサッカークラブのホームスタジオであるゴットリーブダイ

ムラーシュタディオン（四輪自動車生みの親であり，ダイムラー社の創設者の名をとったサッカー場）に隣接していた。

写真１

写真２

午後からは専用バスでシュツットガルドの北側に位置するツッフェンハウゼンに移動し，2009年１月末に一般公開されたばかりのポルシェ社の新ミュージアムを見学した。その様子を写真２に示す。１階にはちょっとしたカフェバー，ショップがありエスカレータで最上階にのぼっていくと，タイプ64のアルミレプリカや356ロードスター，917スパイダーなどが目に入ってきた。中には約80台の車両，200点の展示物が展示されていた。最上階にはレストランも入っていた。車両やエンジンのカットモデルの展示，モニターでは車両開発や製造の様子の映像が流れているのも興味深い。学生は必死にデジカメで画像をおさめようとしていた。博物館の向いには大きなディーラーがあり，こちらを見るのも面白い。普通にポルシェの高級車が駐車場にとまっているのもドイツならではの雰囲気がある。学生はそんな車まで写真に収めていた。

見学後は市内中心地へ移動し少し自由時間をすごした後，レストランで食事となった。たまたまワイン祭りの期間中で露店（かなりしっかりしたもの）がでていて，ワインを飲ませる店が多く，メインストリートの通り一つ入った通りに出店されていた。皆思い思いに旧宮殿を見学したり，新宮殿前広場でくつろいだり，ワイン祭りの出店でワインを飲んだりして時間をすごしていた。

３日目は，午前中シュツットガルド市内を思い思いに自由研修した。その様子を写真３に示す。

午後，ドイツ・シュツットガルドを惜しみながら，イタリア・ミラノに向けて午後１時55分に飛び立った。約１時間半のフライトでミラノのマルペンサ空港に着いた。その後，専用バスでフェラーリ社の位置するマラネロへ向かった。ミラノを出発し，途中のサービスエリアで１回休憩し，約４時間でマラネロのホテルに到着した。マラネロはエミリア・ロマーニャ州モデナ県のコムーネのひとつ，人口１万６千人の小都市であり，フェラーリの聖地である。宿泊先であるヴェストウェスタン・イン・ドムスはフェラーリ関係者も宿泊し，マラネロ庁舎に隣接するクラシカルなホテルである。到着後，異国イタリアで初めての食事を味わった。その様子を写真４に示す。

写真３

写真４

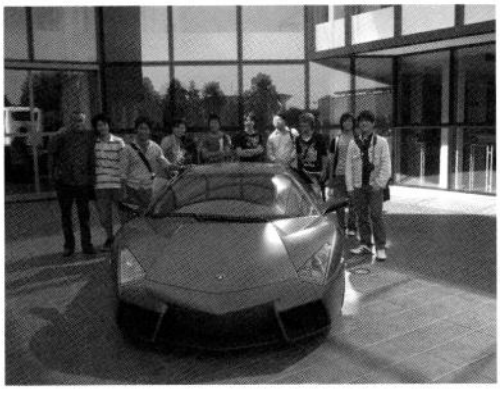

写真５

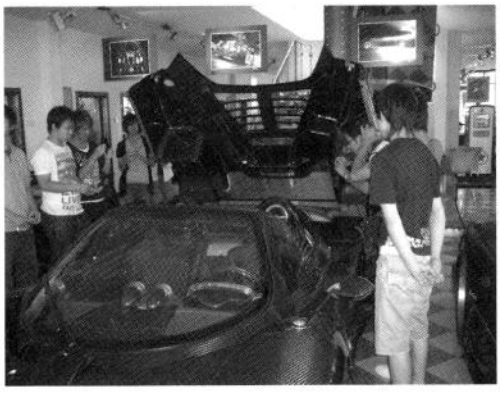

写真６

４日目は，マラネロの宿泊ホテルから専用バスでランボルギーニ社があるボロネーゼに移動し，約１時間で到着し，博物館を見学した。ランボルギーニ社正面にはムルシエラゴが駐車してあり思わず車を囲んだ。その様子を写真５に示す。ランボルギーニのスタッフの方が，ランボルギーニの歴史と代表する車の説明を丁寧に行ってくれた。その後，パガーニ・ゾンダ社があるモデナにバスで移動し見学した。学生諸君はかなり満足して見ていた。その様子を写真６に示す。パガーニ・ゾンダ社の車のボデーはカーボングラファイトで作られているのが特徴で，会社独自にカーボングラファイトを加工し，炉で焼成し成型している。昼食後，フェラーリ社周辺を各自思い思いに自由散策した。その後，フェラーリを個人で所有し展示している博物館を見学した。その様子を写真７に示す。この所有者は大酪農家の老人で，パルメザンチーズの塊が倉庫に見渡すほど積まれており，何百億円の価値の在庫があるそうだ。

５日目は，ホテルで朝食後フェラーリ博物館を見学した。その様子を写真８に示す。博物館では，フェラーリの歴代の車，Ｆ１マシンの歴代の車が勢ぞろいしており，マニアにはたまらないものであった。また館内でフェラーリの工場の様子の映像も見られるようになっていた。その後，国立フェラーリ工業専門学校で研修が行われた。研修修了式後，国立フェラーリ工業専門学校の

校長先生をはじめとして先生方と集合写真を撮ったので，写真９に示す。

昼食後，3月に行っているイタリア短期留学で学生がお世話になっているザナシー（フェラーリ専門の整備工場）及びトニーオート（整備工場）の見学をした。ザナシーでの集合写真を写真10に，トニーオートでの様子を写真11に示す。フェラーリのテストコースも見学を行った。マラネロはさすがにフェラーリの本拠地だけあって，街の中をテスト車両が走り抜けていく姿が普通に見られた。自由行動の後，マラネロを後にし専用バスで一路異国文化に関わる研修地ヴェネツィアに向かった。

写真７

写真８

写真９

写真10

６日目は，車では入ることができないヴェネツィア本島に水上バス（船）で移動し，市内観光を行った。ヴェネツィアはアドリア海に面したヴェネツィア湾のラグーナの上に築かれた水の都である。10世紀から貿易商業都市として繁栄し，1200年代初頭の第４回十字軍の中心的存在であった。シェークスピアの「ベニスの商人」の舞台でもある。日本でもおなじみのマルコ・ポーロもヴェネツィア出身の商人であった。ドゥカーレ宮殿やサンマルコ寺院をはじめとして，サンマルコ広場，溜息の橋，ガラス細工工房などを見学した。歴史的な背景の丁寧なガイドがあり，学生も興味をもって聞いていた。見学後，水の都ヴェネツィアを遊覧するゴンドラ（船）に乗船し

た。その様子を写真12に示す。

昼食後，自由研修に入り車もバイクも自転車も走っていないという，他国では絶対に味わえないような雰囲気を，夜までたっぷり肌で感じた。また，ヴェネツィアは地盤沈下が起こっており，ときおり水害にあっていて数年後には水没するといわれており，そういった意味でも良い研修になったと思う。

7日目は，帰路に着くためヴェネツィアのホテルを午前7時に出発し，ヴェネツィア・マルコポーロ空港よりフランクフルト経由で名古屋に向かった。

8日目の朝，全員無事に中部国際空港に到着し，それぞれが家路に無事着いた。

写真11

写真12

5. 考　　察

今回の研修旅行では，海外研修旅行委員会も早く立ち上がり新旧合同第1回委員会を11月に開催し意見交換を行った。その後，海外研修旅行委員会の新委員で募集定員及び研修場所の決定と研修期間の検討を行った。また，学生数減ということで参加募集が難航することが予測されたので，年内にリピーターも呼び込めるような旅程案を作成し，年明けには募集活動に入ることとし作業を進めてきたが，予想以上に募集は難航した。それは，研修旅程の項でも述べたように，早期に旅程を提案したにもかかわらず6月下旬まではっきりした旅程を調整できなかったこと，参加募集の項でも述べたように，昨年末からの経済不況，4月末には新型インフルエンザの発症，学生数減等のマイナス要因が多かったことが原因していると考えられる。今後はこのような現状も踏まえながら募集人数，旅程を検討すべきだと考える。

6. ま　と　め

この研修旅行では，フェラーリ社の工場見学は残念ながら叶わなかったが，それに代わる旅程を再三にわたって立案した。一般旅行や従来の研修旅行とは違った，自動車に関わる研修内容を濃くできた。日本人観光客のいない場所で，殆どの学生が異国での貴重な体験を満足してくれた。

これは，今後，彼らの大きな糧になると思う。なにより，研修旅行の行程中は天候も良く，何事も無く順調に実施でき，全員が無事に帰国できたことが一番の成果である。

最後に，この研修旅行を実施するにあたり多大な協力を頂いた本学の先生方，研修先の調整をして頂いた学園本部の蜂須賀先生には，ここに深く感謝の意を表します。

7. 参　考　文　献

1）大塚三雄，木下勝晴，林　文明，森　光弘，山崎秀美：中日本自動車短期大学論叢　第34号（2003），海外研修旅行（イタリア）の報告（第１報）p.103-107

2）大塚三雄，鈴木敦巳，林　文明，中川　実，松本美紀：中日本自動車短期大学論叢　第34号（2003），海外研修旅行（イタリア）の報告（第２報）p.109 -113

3）大塚三雄，林　文明，中川　実，長谷川達也，出口達也：中日本自動車短期大学論叢　第35号（2004），海外研修旅行（イタリア）の報告（第４報）p.109 -113